

## 1. はじめに

総務省平成 24 年度、情報通信白書の調べによると、日本のインターネット人口普及率は 79.5%である。当然この普及率の数字の中にも色覚障がいの人たちも含まれている。

Website の情報がすべての人に同等に伝わる情報社会が理想である。私が着目したのは、先天的・後天的な色覚障がい、白内障、などにより色の見え方が異なる人たちへの情報支援である。色覚障がいの人たちにも配慮された情報が正しく伝えられる社会が望ましい。

本卒業研究では「カラーユニバーサルデザインの Website に関する一考察」とし、カラーユニバーサルデザインについて調査した。Website 制作段階で色の見え方をシミュレートする方法を駆使して色覚障がい者を支援する Website を試作し、検討した。

具体的には、色覚障がいに関するアンケート実施と、東洋インキと豊橋技術大学が共同開発した無償配布されているソフトを用いて検証しながら色覚障がい者のための Website を試作した。

## 2. 方法

### 2.1 アンケート

1. 色覚障がいについて一般的にどの程度認知されているかどうかを調査するために、アンケートを行った。

### 2.2 色覚障がい者のための Website 試作

・ Website の測色

「Uding シミュレータ」東洋インキ株式会社製

「Fujitsu ColorDoctor」富士通株式会社製

「ColorSelector」富士通株式会社製

・ディスプレイモニター：DELL

・ディスプレイモニターの輝度とコントラストを出荷時の状態に設定を直した。

・Website 試作手順

1. Website を試作し、Fujitsu ColorDoctor ソフトを使い、第一色覚(赤)、第二色覚(緑)、第三色覚(青)の場合での識別できない色を比較検討した。
2. 比較検討により、色の彩度、濃度が判別できないものについてはFujitsu ColorSelectorソフトを使い、彩度と濃度を変化させ各色覚障がいに合わせ色を調整した。

## 3. 結果

アンケート調査のグラフのみ概要に掲載する。

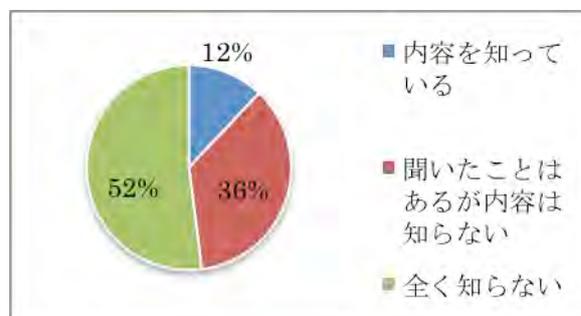


図 1 色覚障がいの認知度



図 2 カラーユニバーサルの認知度

図 1 は色覚障がいの認知度について、図 2 はカラーユニバーサルデザインの認知度についてアンケートした結果である。

## 4. 考察

①一般の Website は色覚障がい者に対しまったくと言っていいほど対応していないことが分かった。

②眼科の Website では色覚障がい者を意識した一番青い色で抑えられていることが分かる。

③アンケート結果から色覚障がいについては半数の人が、またカラーユニバーサルデザインについて 3/4 がまったく知らない人と答えた。これはカラーユニバーサルデザインが浸透していないことが考えられる。

④JIS X 8341-3「障がいのある人及び一時的な障がいのある人がウェブコンテンツを知覚し、理解し、操作できるようにする」と規定されているにも関わらず情報社会では浸透していないと考えられる。

## 文献

- [1] 総務省、情報通信白書平成 24 年度版、第 2 部、第 4 章、第 3 節インターネットの利用動向、p310、2012
- [2] 岡部正隆、伊東啓、色覚の多様性と色覚バリアフリーなプレゼンテーション(全 3 回)、細胞工学、Vol.21、No.8、pp.1080-1104、2002